

建設委員会報告資料【追加】

令和2年10月5日

報告事項件名	頁
(1)【追加】花畑川環境整備事業地元説明会の開催結果について	2

(都市建設部)

建設委員会報告資料

令和2年10月5日

件名	【追加】花畑川環境整備事業地元説明会の開催結果について
所管部課名	道路整備室工事課
内容	<p>花畑川環境整備事業富士見歩道橋架替えについて、地元説明会を開催したので、以下のとおり報告する。</p> <p>1 説明会概要</p> <p>(1) 開催日時 令和2年9月28日(月) 午後7時～8時20分</p> <p>(2) 開催場所 中川北小学校 体育館</p> <p>(3) 参加者 65名</p> <p>2 説明内容(別紙参照 P4～10)</p> <p>(1) 整備断面図(見直し計画)</p> <p>(2) 完成予想図</p> <p>(3) ヒートアイランド現象について</p> <p>(4) みどり率について</p> <p>(5) 雨水の貯留について</p> <p>(6) 富士見歩道橋の架替え</p> <p>(7) 今後の整備スケジュールについて</p> <p>3 主な質疑</p> <p>(1) 花畑川護岸整備について</p> <p>Q1: 川幅が狭くなり川底が高くなることで、河川氾濫等水害対策は大丈夫なのか。</p> <p>A1: ハザードマップに示す最大雨量に充分対応できる計画になっている。中川、綾瀬川の水位が高くなると六ツ木水門と花畑水門を閉めることで、川からの流入は無くなり、雨水のみの対応となるため、より多くの降雨に対応できる。</p> <p>Q2: 水量が少なくなることで、ヒートアイランド対策の効果が低下するのではないか。</p> <p>A2: 新たに樹木を植えることによる樹木からの蒸散作用と水面幅の確保、さらに保水性舗装をすることで、ヒートアイランド現象への効果を期待できる。</p>

Q3：平成13年度の計画より、護岸の勾配がきつくなっている。水面が見えなくなってしまう。

A3：できるだけ水面幅を確保し、散策路を整備するために護岸の勾配をきつくしている。散策路から転落防止柵越しに水面を見ることができる。さらに水辺に近づける場所として、雪見公園や六木第四公園の辺りで階段護岸を検討していく。

Q4：平成13年度に、「顔が見える声が聞こえるふれあいのまちづくり」をテーマに勉強会を行ってきた。これを実現するためには、散策路が必要である。地域住民として早期の整備を望む。

A4：了解した。

(2) 富士見歩道橋架替えについて

Q1：富士見歩道橋は、車道橋ではなく、歩道橋に架替えると理解しているのか。

A1：そのとおりである。

(3) 整備工程について

Q1：全体の整備完了時期は、何年を想定しているのか。

A1：現在のところ、10年程度と見込んでいる。

Q2：富士見歩道橋の架替え時期はいつ頃か。

A2：令和3年度に詳細設計を行う。

4 今後の予定

年 月	内 容
令和2年度末～令和5年度	第1期護岸整備工事
令和3年度	富士見歩道橋詳細設計
令和5年度～	富士見歩道橋架替え工事着手

富士見歩道橋架替え後に、第2期区間の護岸工事を進めていく。

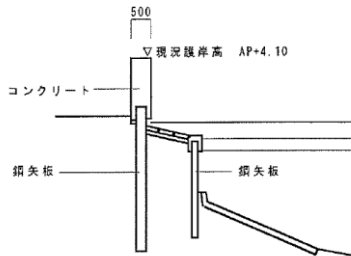
問題点
今後の方針

第1期工事区間の積算作業を進め、令和3年第1回定例会へ契約案件を提出する。

1 花畑川の現状

別紙

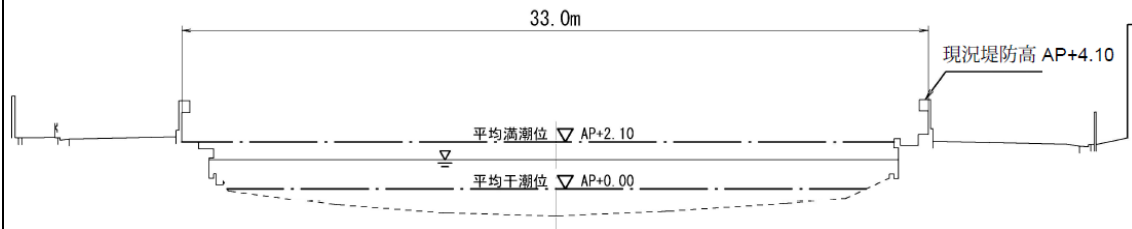
- 河岸は、鋼矢板護岸が設置され上部はコンクリート構造となっており、コンクリート部は一部老朽化が進んでいます。
- 道路から護岸天端まで最大で約2mとなるコンクリート壁により、周辺から川は見えにくい状況となっています。



既設護岸構造

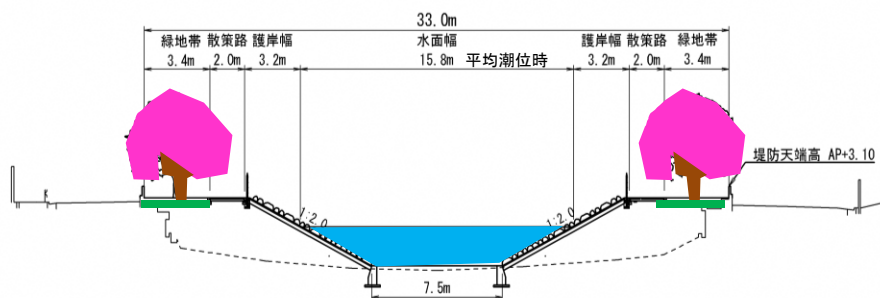
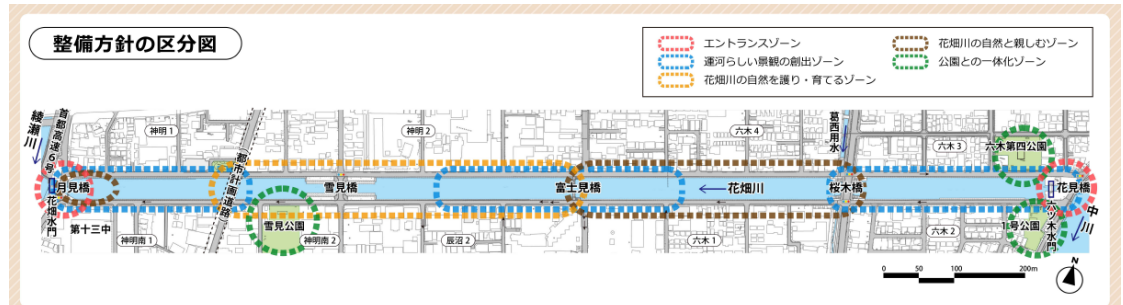


富士見歩道橋からの花畑川

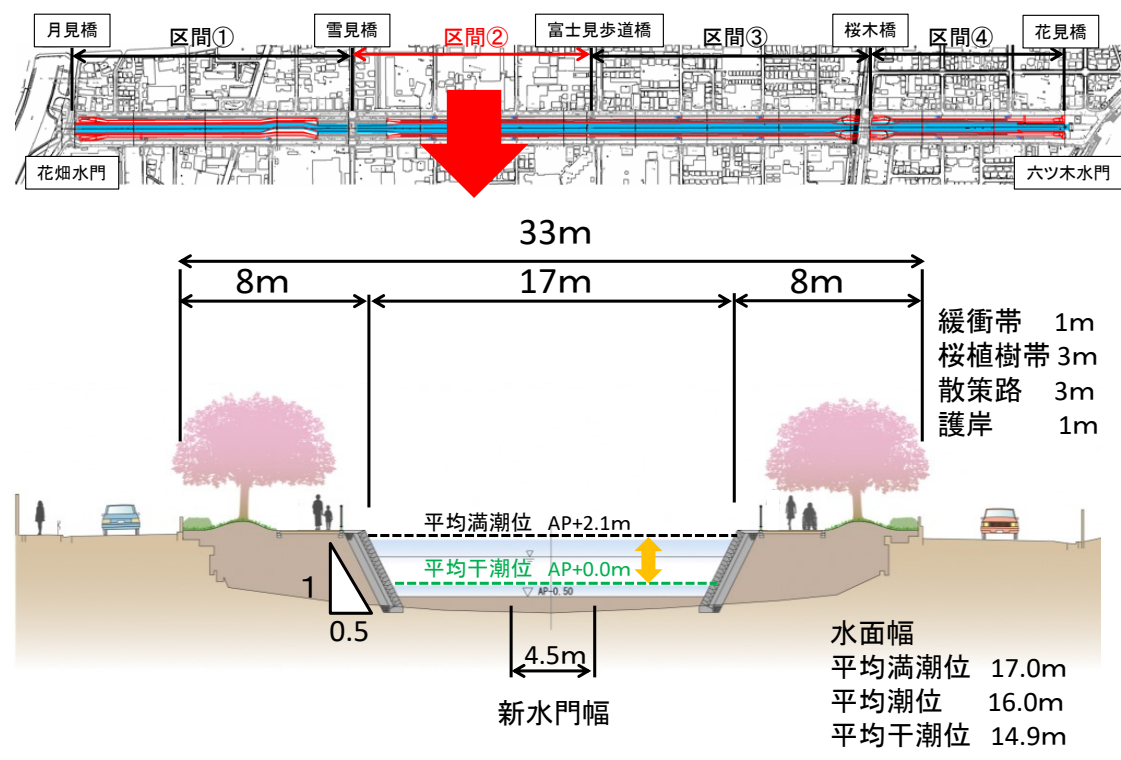


2 平成13年度の花畑川環境整備基本計画

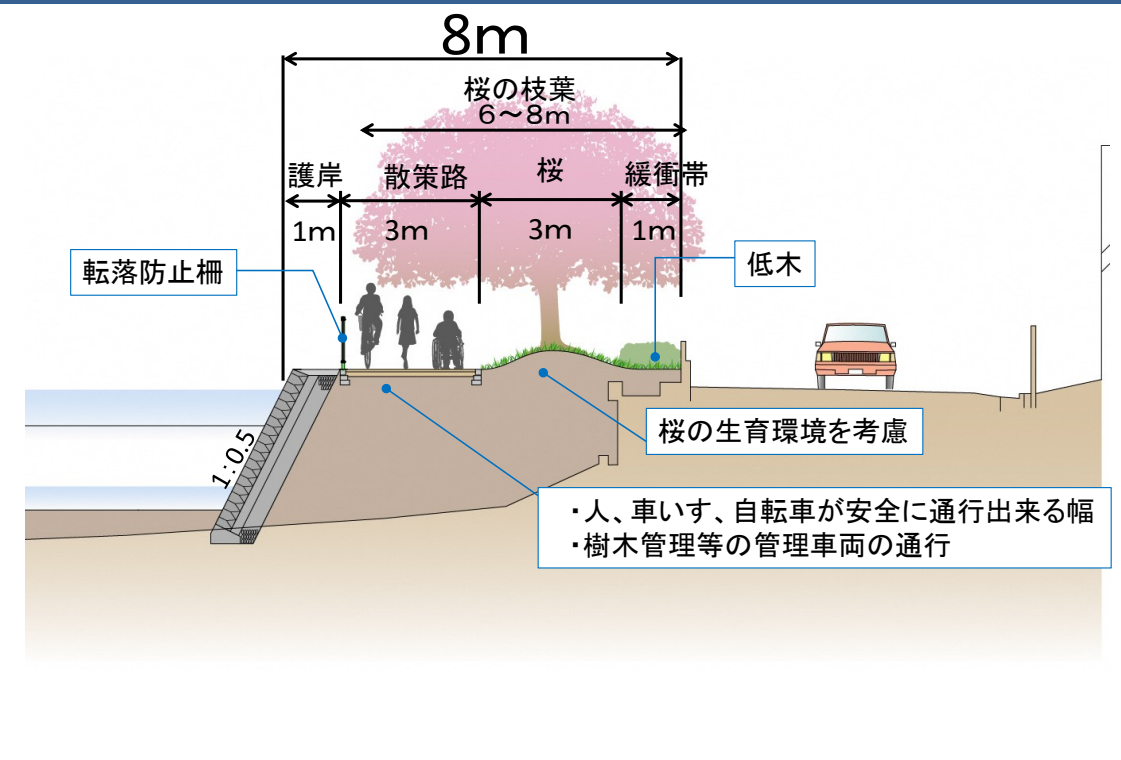
平成12～13年度にかけ、花畑川の整備計画を検討しました。その時の計画を基に、散策路の整備等を見直しました。



3 見直し計画(雪見橋～富士見歩道橋間)



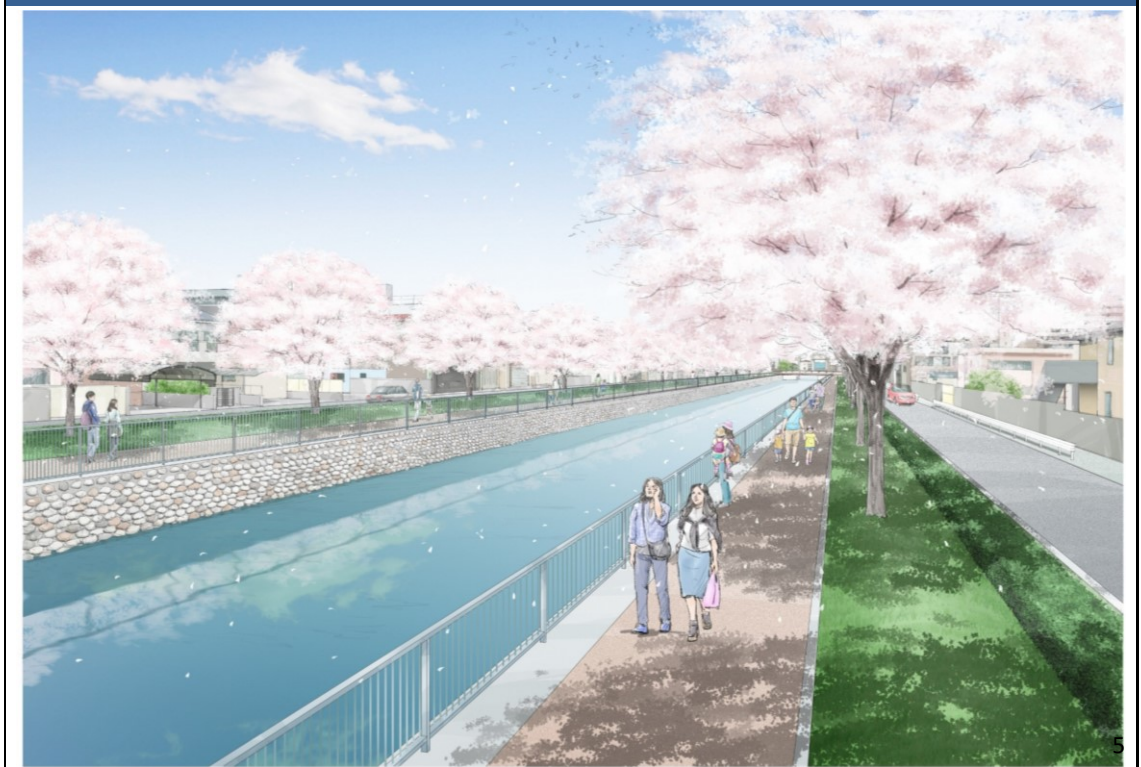
4 見直し計画(散策路付近拡大図)



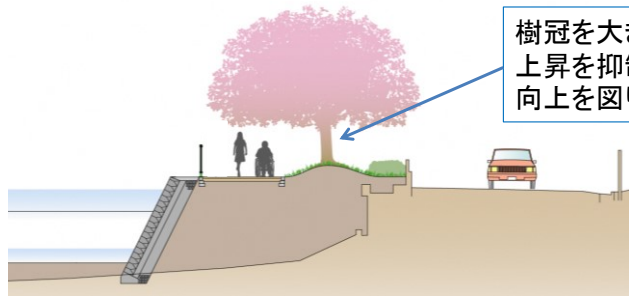
5 完成予想図① 雪見橋から富士見歩道橋を望む



6 完成予想図② 富士見歩道橋から桜木橋を望む



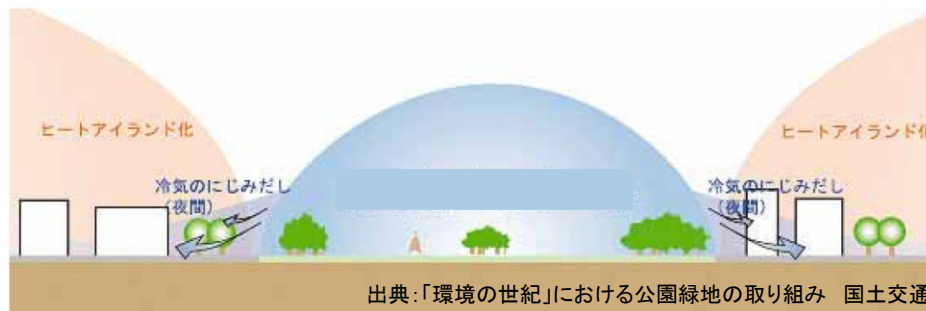
7 ヒートアイランド現象について



樹冠を大きく育て、木陰を創出し、地表面温度上昇を抑制するとともに、歩行空間の快適性の向上を図ります。

緑の蒸発散作用により気温の上昇を抑える

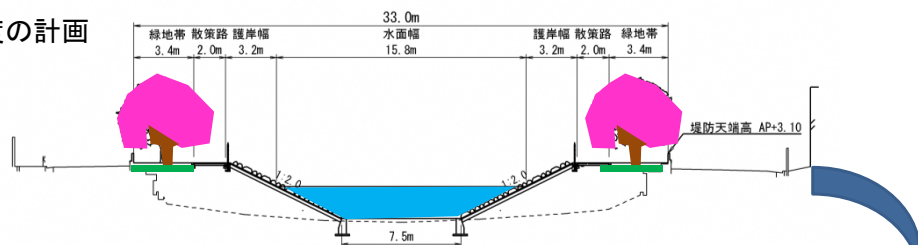
植物は、晴れた日に葉から盛んに水分を蒸発させ、空気中に水蒸気を放出します。木や葉からの蒸発量により、ヒートアイランド現象への効果を高めます。



出典:「環境の世紀」における公園緑地の取り組み 国土交通省

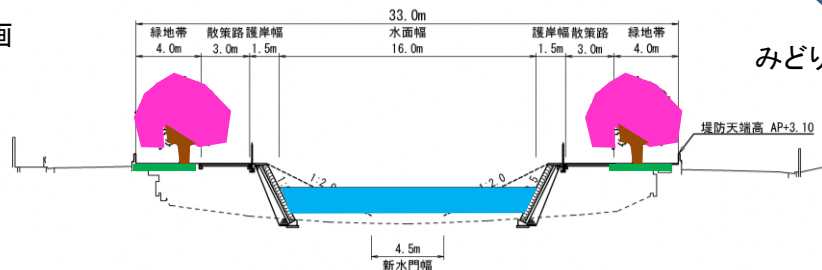
8 みどり率について

平成13年度の計画



$$\begin{aligned} \text{みどりの面積} &: \text{延長} \times (\text{水面幅} + \text{緑地帯}) = 31,640\text{m}^2 \\ &1,400\text{m} \times (15.8\text{m} + 3.4\text{m} \times 2) \end{aligned}$$

現在の計画



$$\begin{aligned} \text{みどりの面積} &: \text{延長} \times (\text{水面幅} + \text{緑地帯}) = 33,600\text{m}^2 \\ &1,400\text{m} \times (16.0\text{m} + 4.0\text{m} \times 2) \end{aligned}$$

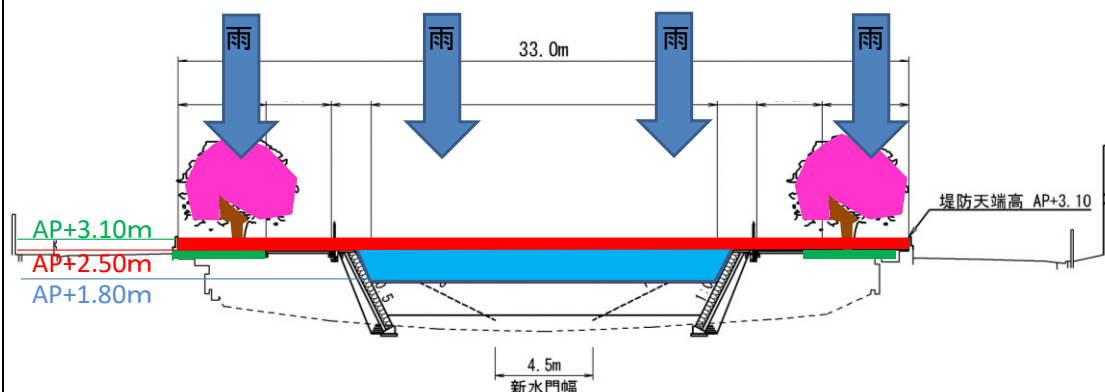
比較
みどり率は6%増

9 雨水の貯留について

花畑川は、両側にある水門により水位を調整しています。

現在は、水位がAP+2.45mに達すると六ツ木水門を閉めています。これにより花畑川への流入は、雨水のみとなります。今後は、台風時など中川の急激な水位上昇が予想される場合は、現在より早く六ツ木水門を閉め、中川からの流入を防ぎ、より多くの雨水貯留に対応していきます。

※AP(Arakawa Peil)とは、荒川水系の水位を示すもの。川底からの高さではありません。

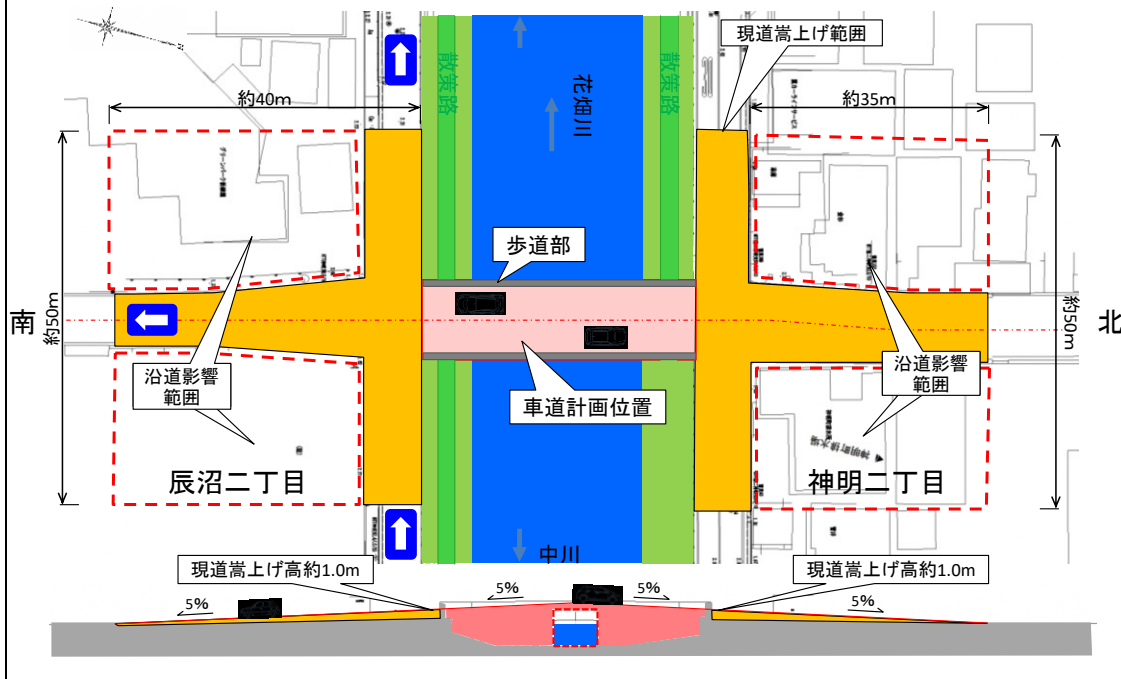


ハザードマップでは、花畑川周辺に降る最大雨量は596mmと想定しています。

整備後においても、水門を早く閉めることで972mmの雨水を貯めることが可能となります。

10-1 富士見歩道橋の架替え(車道橋にした場合)

富士見歩道橋を車道として整備した場合には、周辺道路の嵩上げが必要となり、沿道の建築物への影響が大きくなります。



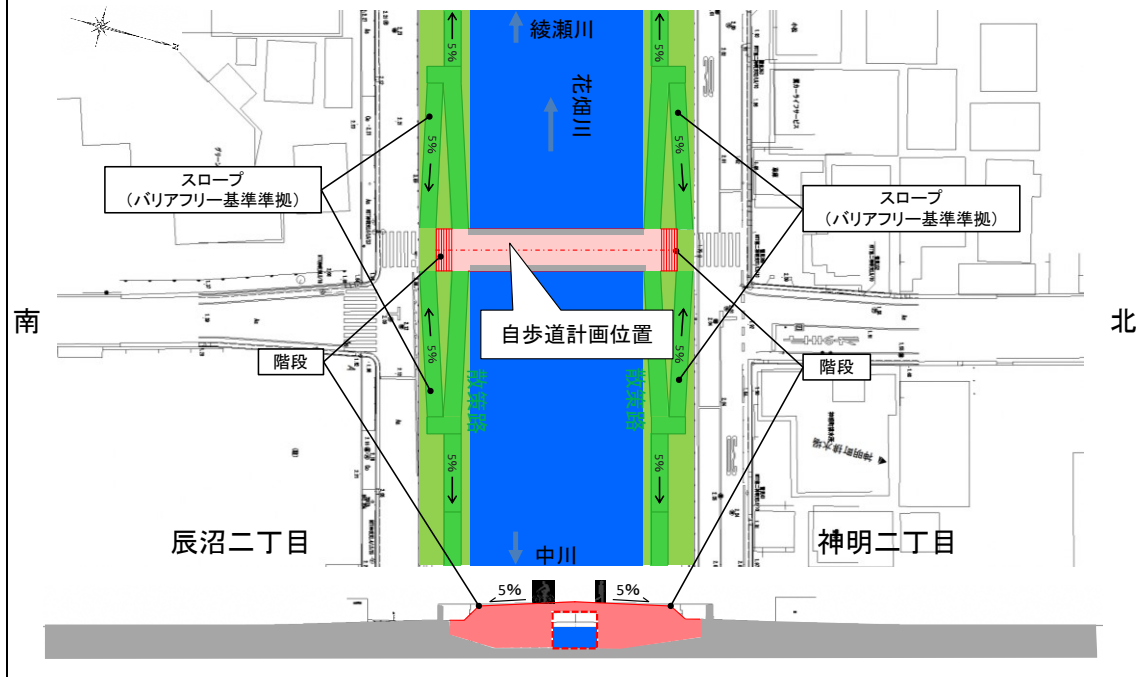
10-2 富士見歩道橋の架替え(車道橋にした場合)

富士見歩道橋を車道として整備した場合には、周辺道路の嵩上げが必要となり、沿道の建築物への影響が大きくなります。



11-1 富士見歩道橋の架替え(歩道橋にした場合)

富士見歩道橋を自転車・歩行者道として整備した場合、沿道建築物への影響はなく、バリアフリー化が達成できます。



11-2 富士見歩道橋の架替え(歩道橋にした場合)

富士見歩道橋を自転車・歩行道橋として整備した場合、沿道建築物への影響はなく、バリアフリー化が達成できます。



12 今後の整備スケジュールについて

- 全延長約1.4kmの花畑川を4期に分け、順次施行していきます。
- 富士見歩道橋の架替え事業は、令和3年度に詳細設計を行う予定です。
- 最初の施工箇所、区間②(雪見橋～富士見歩道橋間)の工事は、令和3年3月から令和5年度を予定しています。

